



去る8月1日(土)、愛教研八幡浜支部法制対策部・情報宣伝部共催による「教育を語る会」が開催されました。今年度は八幡浜市長大城一郎様から八幡浜市の目指す方向について話していただきました。以下、そのときの講話内容を掲載いたします。

平成 27 年度「市長と教育を語る会」平成 27 年 8 月 1 日(土) センチュリーホテルイトーにて

開会挨拶 (愛教研八幡浜支部長 西宮 勉 校長)

夏休みに入って2週間が経過しようとしています。小学校では、暑い中での水泳記録会、中学校では、県総体が終わりました。八代中学校野球部が38年ぶりの県優勝を果たし、本当にうれしく思います。また、小学校では陸上練習、中学校では、補習、駅伝練習となかなか休む間もない夏季休業中ではないかと思います。

連日ご多忙の中、大城市長さんに来ていただいています。今年は、市制施行10周年ということで、いろいろなイベントが計画されています。20周年、30周年に向けて、少子高齢化の進む八幡浜市ではありますが、八幡浜市を元気に、そして活性化する思いや願いをこの後、聞かせていただけたらと思います。そして、その中であって学校教育に対する思いや願い、また私たち教育に携わる者へのご指導等いただけると幸いと思っています。

市長と教育を語る会



講話 (八幡浜市長 大城一郎 様)

今日は、市長と教育を語る会ということで、校長先生・教頭先生方・若い先生方にお集まりいただいているので、八幡浜の市政について語りながら、後ほどの会で教育についても話していきたいと思います。

【総合戦略の基本目標】

今、全国的に問題になっているのが少子高齢化問題。総人口、年少人口、生産年齢人口等、ほとんどの年齢人口が減っている中、ただ一つ高齢人口のみが増えている。八幡浜市 36,000 人の町で 65 歳以上の高齢者が 13,000 人を超えている。36.2%の高齢化率になっている。これを、どうにかしていかなければならないということで、八幡浜市では、総合戦略の基本目標というものを次のように立てている。

(1) 地方における安定した雇用を創出する。

たとえ子どもたちが大学に行っても、働く場所がなければ帰って来られない。そのためには、安定した雇用を創出する機会が必要である。

(2) 地方への新しい人の流れをつくる。

みなっとには、毎年 100 万人以上の人が訪れている。九州から八幡浜を通過して関西方面へ行く人、反対に、関西から八幡浜を通過して九州へ行く人たちが増えている。このように、人の流れをつくろうということである。

(3) 若い世代の結婚、出産、子育ての希望を叶える。

仕事がなければ結婚もできないし、子どもをつくろうと思ってもなかなか難しい。時代にあった地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携していこうということである。

【九州との連携の模索】

八幡浜市と南予は今までどおりだが、新たに八幡浜市とフェリーでつながった九州の別府、大分、臼杵と連携していく話を進めている。先日、別府市を訪れ市長と話した。現市長は、今年から市長となり、若い感覚でこれからの別府市を変えていこうとしている。その中に、八幡浜市も入っていき、お互いに今までは近くて遠い町であったが、これからは近くて近い隣町、もっと近くていこうという話をしている。例えば観光。別府には、中国、韓国からたくさんの観光客が来ている。私も一泊二日で行って来た。ホテルの中は 90%以上が中国人だった。従業員も中国人が多い。そのような環境だった。その人たちの中の少しでも、こ

ちらに来てもらえればと考えている。そして、スポーツでも、八幡浜市を始め愛媛県内では、サイクリングパラダイスを目指して「愛媛マルチ自転車道」作戦の展開を行っているが、九州を股にかけて、佐田岬半島から佐賀関に渡り、別府から帰ってくるというコース設定をしたらどうかと考えている。そんなことを話していたら、向こうの方から、災害協定を結んでももらえないかと言ってきた。こちら、伊方原子力発電の関係で、九州に避難することを考えている。反対に九州は、阿蘇山が噴火した場合、こちらへ避難したいと考えている。このようなことで、地域と地域とが連携していけたらいいと考えている。

【地方創生関連法案の説明と活用】

(1) 「みかんの里、宿泊・合宿施設整備事業」について

昨年、地方創生関連法案が国会で通っている。その先行事業として、八幡浜市では、みかんの里、宿泊・合宿施設の整備を始めた。閉校になった舌田小を活用している。真穴・川上にアルバイトとして入ってきた人、仕事のために入ってきた人が、昨年度10月から2月にかけて2,000人を超えていた。アルバイトの人たちの食事・お風呂・寝るところなど、全てを真穴の人が構えていた。それも苦になり、アルバイトが雇えない家が増えてきた。そこで、地方創生先行予算を活用して国費で整備事業を行うことにした。10月までに32名宿泊できるように1階を改造する。来年度は2階に52名。計84名が宿泊できるようになる。それを、JAの方々と協力しながら運営していきたいと思っている。

(2) 温泉施設整備事業について

白浜に温泉を掘っている。今950メートル掘っている。ケーシングを設置して、掘った穴を水で掃除している。調査の結果、5か所ほど亀裂がありそうだということが分かっている。そこから1分間に30リットルのお湯が出れば、温泉の掘削が成功したことになる。お盆あたりには、その結果が出ると思う。温度的には25℃あれば温泉と言えるが、今のところ36~37℃はあるようだ。だから、出さえすれば来年4月には、白浜で温泉につかれるようになる。

(3) 駅前整備事業

今の状態でも使い勝手がいいので、今の状態を踏まえながら、バスや自動車がスムーズに流れるかを考えているところである。駅前再生事業に加え、行く行くは駅前からみなとまでをきれいにしようということで、電柱を地下に埋める無電柱化を考えている。

(4) 大型バス貸出し事業

今まで、保内町の赤バスを使っていたが、今回廃棄となった。福祉協議会の方もやめることになった。バスを存続してほしいという市民からの声が多かったので、大型バスを買うことにした。バスを作るところが全国で1か所しかないため時間がかかる。来年3月に入ってくる予定である。その後、貸出しを開始するので、ぜひ利用してほしい。

(5) 八幡浜市の農水産物を世界へ(FOOD TAIPEI 2015)

先日、台湾の食の見本市に行ってきた。今回は行っただけだったが、来年は八幡浜のみかんや魚を持って行きたい。再来年には、スーパーマーケットか三越の食品売場に、ミカン、甘平、せとか、紅マドンナ、魚などを置きたいと思っている。台湾に行って話を聞くと、日本の商品はおいしくて安心だし、安全だから高くても買えるということだった。台北には、人口300万人の2割、約60万人が富裕層である。その人たちへの贈答品になるのではないかと考えている。

(6) 地域おこし協力隊

日土東に2人の女性、新たに大島にも1人の男性が入ってきて、若い3人の力を借りて、八幡浜市の地域おこしを考えている。

(7) 伊方原子力発電所の再稼働

5月20日に原子力規制委員会が審査書を作成・提示し、7月15日に正式決定した。いよいよ、八幡浜市が、知事に対してどうするか返事をしなければならぬ時期がきた。今、八幡浜市と愛媛県と四国電力の間で、覚え書きを交わしている。覚え書きの中に「大きな事案の時には、八幡浜市の意見を聞

市長と教育を語る



かなければならない。」という内容が盛り込まれている。今回は特に再稼働のことである。今、日程を決めて、各界・各層の方々に案内を出している。みなさんの意見をまとめながら、知事に八幡浜市の原子力に対する判断を伝えていきたいと思っている。

(8) 八幡浜総合市立病院

病院も完成に近づいている。現在古い病棟を解体中である。新しい外来棟ができれば、来年秋ごろには引っ越しをすることになる。外見だけでなく、手術室、検査室もいい内容になっている。広い手術室が4部屋ある。外科は山口大学から、整形外科は広島大学から来ている。来てもらう人にとって最高の設備にしている。今後新しい機械が入ってきても、スペックがどんなに広がっていても、対応できる手術室にしている。検査に関しても、新しい機械は放射線を浴びる割合が75%カットになっている。患者さんに優しい。そのような機械が入っていることも、しっかりとPRしていきたい。

(9) 八幡浜港フェリー再整備事業

重要港湾だった八幡浜港が、平成12年に普通港湾に格下げになった。今は、特定地域振興重要港湾となっている。全国で13港あるが、このような形で事業が進んでいるのは八幡浜だけ。フェリーは別府と臼杵を、1日20往復、年間70万人の人が利用している。昨年、山陽自動車道が雪で通れなかったとき、トラックの方が四国に渡って八幡浜から九州へ向かった。京阪神に行く人は八幡浜市に渡ってこの港を利用した。2日間全線満船だった。フェリーも5,000~6,000トンにしたいという思いもあり、ここに新しい栈橋をつくろうという計画を立てた。5年後には新しい栈橋ができる予定である。



【公共施設等の在り方の検討】

高度経済成長の折に多くの公共施設をつくってきたが、橋・公民館等、老朽化が進んでいる。これからの公共施設の在り方を考えている。これから何年も続けていく、なければならぬ施設もあるし、あるいは1か所にまとめていかなければならぬ施設もある。子・孫の世代を見据えた公共施設をつくっていかなければならないと思っている。公共施設には、教育施設、文化施設、福祉施設がある。

(1) 教育施設について

教育施設について、人数の少ない中学校をどうしていくか、勉強面、スポーツ面、男女の人数等においての問題点がある。やっぱり子どもたちには、整った運動環境・教育環境をつくってやらなければならない。中学校3年間、ずっと男の子だけのクラス、女の子だけのクラスも出てきている。子どもから大人に変わっていく中学の大事な時期の子どもたちには、それなりの整った環境をつくる必要があると考えている。

(2) 文化施設について

文化施設をどうするか。八幡浜市民会館の大ホールは、年間数回しか使われていない。その維持費をどうしていくか。もう既に、ゆめみかんでやればいいのかという声も聞いている。今ある施設を充実して使っていきたいと思っている。そうするには、広い駐車場が必要。隣にある広い空き地に駐車場を作り、その場所に、今駐車場がなくて困っている保内の3園をまとめた大きな保育所をつくる。そして、その横に児童センターをつくれればいいのか、そういうところを、うまく利用して、公共施設をつくっていくことが、今の八幡浜市の課題である。

(3) 福祉施設について

福祉施設も同様で、あけぼの荘と湯島の里があるが、現状では使いづらいつくりになっている。プライバシーのことも考え、いい場所を提供していきたいと考えている。

(4) 商店街・空き店舗の活用について

新町をどうしていくのか。もう既に、フジグラン北浜店、江戸岡フジ八幡浜店が商店街の代わりになっている。じゃあ、商店街をどうするか。以前、商店街にあった丸三百貨店は、今では介護施設になっている。これは、時代の流れに沿った商店街の変遷だと思っている。このように、シルバー世代の交流のためのサロンとしての活用、また、町の真ん中で雨が降ってもアーケードがあるし、塾に行った帰りも安全だという若者にとっての通学路・通塾路としての活用。さらには、若者の活動拠点としての活用も考えている。

【イベント紹介】

○ 第2回八幡浜産業まつり&ワールドちゃんぽん・クラシック 2015

全国15団体が加盟する「全国ご当地ちゃんぽんサミット」で年1回の大会をすることになり、今年は八幡浜市が会場となる。期日は、平成27年11月14日・15日で、場所はみなと。白杵、別府、韓国からも参加予定。

○ 愛媛南予博覧会

愛媛南予博覧会が来年開催されるが、今回は、南予全域で行われるため、4月のオープニングイベントはみなとでやって欲しいと思っている。

○ 八幡浜国際MTBレース 2015(5/15~17)

マウンテンバイクレース子どもの部の優勝は、3部門共に宇和の子どもだった。自転車好きの子どもはたくさんいると思うので、こういうところに引き込みたい。八幡浜の子どもたちの参加をよろしく願いたい。

○ 子ども議会

8月6日に中学生、子ども議会がある。すでに案件を見たが、いい質問ばかりだった。精一杯答弁したいと思っている。

○ 美の饗宴

市立図書館で「美の饗宴」が開かれている。ゴーギャン、シャガール等、一生に一度しか見られない絵が来ている。すばらしい作品ばかりなので、子どもたちにも見せて欲しい。

【マイナンバー制度】

行政の仕事が楽になるし、様々な手続も楽になる。年金、ローン、保険にしても、今より簡単に手続ができるようになる。大変便利なものなので活用してほしい。そして、1番の国のねらいは、公平・公正な社会にすることだと思う。やがては、貯金通帳もすべて同じ番号になる。どれだけ貯金して、どれだけ稼いでいるのか、全てこの番号で分かるということになる。会社も全て個人ナンバーで振り込みをする。それなら、税金もこれだけ納めてくださいということになる。反対に少ない人は、セーフティーネットでかかりやすい。すなわち、あなたは生活保護の対象になりますねと市の方からも言えるようになる。そういうところが、このマイナンバー制度の利点になると思う。

【愛顔つなぐえひめの国体について】

バレーボール(成年男子)	市民スポーツセンター	(H29.10.6~9)
ソフトボール(成年男子)	王子の森・市民スポーツパーク	(H29.10.1~3)
カローリング	市民スポーツセンター	(H29. 8.27)
バレーボール(精神障害部門)	市民スポーツセンター	(H29.10.28~29)

一番大事なことは、会場の冷暖房をどうするか、障害者部門をどれだけ成功させるかによって、国体の価値が決まるとも言われている。市民全員で、来てもらう人たちに気持ちよくプレーしてもらう。そして、国体を味わってもらおうと思っている。小中学生の皆さんにも、応援をよろしく願いたい。

意見交換

子どもたちに話を聞くと、自分たちが想像している以上に八幡浜に残りたいと思っている子が非常に多い。しかし、現実として地元就職する子は少ない。子どもたちにとって、八幡浜は元気がある(働くところがある、子どもが育てやすい、住みやすい等)ということが、進路学習をするときにも夢を持たせやすい。今日の話は、子どもたちにとってうれしい話であった。

謝辞・閉会挨拶 (愛教研八幡浜支部副支部長 井上久明 校長)

これからの八幡浜、特に、町・人・仕事について熱く語っていただきました。我々300人足らずの教職員の集団ですが、一生懸命がんばっています。今後ともご支援いただきたいと思います。教育予算を少しでも上げていただければもっとよい教育ができるかと常々考えています。先生方も夏休みに十分休養していただき、2学期に備えていただきたいと思います。

